



2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月9日

上場会社名 株式会社Ubicomホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 3937 URL <https://www.ubicom-hd.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 正之
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営戦略本部長 (氏名) 八田 真資 (TEL) 03 (5803) 7339
 四半期報告書提出予定日 2023年2月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	3,910	13.3	733	4.9	746	4.5	413	△20.7
2022年3月期第3四半期	3,452	11.1	699	11.0	714	14.7	521	18.6

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 397百万円(△22.8%) 2022年3月期第3四半期 515百万円(18.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	35.05	34.20
2022年3月期第3四半期	44.10	42.89

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	5,669	3,973	70.1
2022年3月期	5,624	3,812	67.8

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 3,973百万円 2022年3月期 3,812百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	9.00	9.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年3月期の配当につきましては、引き続き未定としております。配当予想額の開示が可能となった時点で速やかに公表いたします。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,446	15.2	1,254	21.4	1,271	20.5	925	11.2	78.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年3月期3Q	11,856,480株	2022年3月期	11,834,000株
2023年3月期3Q	69,438株	2022年3月期	10,690株
2023年3月期3Q	11,800,449株	2022年3月期3Q	11,820,682株

発行済株式数に関する注記

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全国的なワクチン接種が進展するなか新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の行動規制が緩和され、徐々に経済活動が再開してまいりましたが、ロシア・ウクライナ情勢の長期化による物価上昇や供給面での制約に加え、世界的な金融引き締めを背景とした円安進行などもあり、国内外における経済の見通しは依然として先行きの不透明な状況が続いております。

このような環境のもと、当社の属する情報サービス産業におきましては、ビッグデータ、IoT、人工知能(AI)等のIT技術革新が加速度的に発展し、市場の拡大が引き続き見込まれる一方で、国内でこれらの開発を担う人材の不足が懸念されております。

このような状況の中、グローバル事業においては、主にフィリピンを拠点とする効率の高いオフショアリソースを活用したITアウトソーシングおよびソリューション開発事業を展開しており、「ソフトウェアテスト等の実行・管理の自動化(Automation)」「ビッグデータと分析(Analytics)」「人工知能(AI)」等のコア技術を活かし、医療、金融/公共、自動車、製造業および流通/小売・サービス業等に向け、数々のソリューションを継続して提案しております。さらに、第4四半期より本格化が予想される大型開発需要や既存の主要顧客や成長市場での新たなソリューションに係る受注に対応すべく、これまでの積極的な新規採用や即戦力としての中途採用に加え、高難度のプロジェクトマネジメントを担う人材や成長市場にて必須となる技術分野に特化した高度人材の獲得・育成を実施しております。

メディカル事業においては、医療機関向けレセプト点検ソフトウェア『Mighty』シリーズのシェア拡大に向けた取り組みを継続しております。「レセプト点検×AI」を実現した次世代型レセプトチェックシステム「MightyChecker®EX」の引き合いおよび販売も大手医療機関を中心に好調に推移し、レセプト点検ソフトウェア「MightyChecker®」シリーズ、オーダリングチェックソフト「Mighty QUBE®」に代表されるストック型ビジネスを、盤石な収益基盤として確立しております。さらにはクラウドコンピューティングを活用したレセプト点検の推進や、学会や健保組合等へのデータ分析事業の取り組みの実施など、事業ポートフォリオの構成を変革したことにより、当初計画より前倒しにて実施した高収益モデルの確立による効果が継続発現しております。

また、当社事業戦略のスローガンの1つである、「当社知財等を活用した新規事業の育成」においては、2020年9月より提供を開始した保険業界向け業務効率化ソリューション「保険ナレッジプラットフォーム」の横展開を推進すべく、複数の生命保険会社との実証実験を含めた具体的な商談を行っております。同時に、同プラットフォームにおける新たなDXメニューの開発にも着手しており、来期以降の磐石なSaaS収益の発現に向けた取り組みを行っております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,910,774千円(前年同四半期比13.3%増)、営業利益733,954千円(前年同四半期比4.9%増)、経常利益746,473千円(前年同四半期比4.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は413,582千円(前年同四半期比20.7%減)となりました。

セグメントごとの経営成績を示しますと、次のとおりであります。

a. グローバル事業

・グローバル部門

グローバル部門においては、ソフトウェアテストやその実行・管理の自動化、製品開発支援およびアプリケーション開発分野での、日本における既存のピラー顧客からの受注が堅調に推移しております。PC/IT機器の分野では、グローバル大手PCメーカーの取引拡大に加えて他の大手PCメーカーへの横展開を推進、また、AI先進分野の領域においては、グローバル製薬企業などの医療領域をはじめとする新規受注を順調に拡大するなど、業界を代表する大手顧客を中心に、顧客のピラー化に向けた積極的な取り組みを継続強化しております。

新たなソリューションとして取り組みを開始したIVA(インテリジェントビデオ解析)技術を活用したEdge IoT/AIoT/ARの分野に関しても、遠隔支援ソリューションをはじめとする各種先進ソリューションが、実証実験を経て、モビリティ領域における顧客にて実際に採用・運用されております。更には製品外観検査等の工場DXに資するスマートファクトリーの分野においても、顧客のピラー化に向けた協業拡大が継続していることから、今後は同領域における更なる横展開が期待されます。

また、昨今のコロナ禍におけるDXを更なるチャンスと捉え、さらには来年にかけて見込まれる旺盛な需要に対応すべく、第2四半期より継続して踏み込んだ戦略的投資を継続して実施いたしました。先端IT技術およびプロジェクトマネジメントスキルを中心とした人材に係る投資につき計画を繰り上げて実施し、既存のコア技術と併せて、ソリューションの横串的展開を推進してまいります。中国の拠点においては、コロナ禍の影響によるグローバル規模での在宅勤務が定着したことによる継続的な法人向けPC需要およびMicrosoft社のWindows11出荷後も引き続きWindows10搭載機種需要等を受けて、新製品開発を見据えたグローバル大手PCメーカーの戦略に沿った取引深耕を見据え、拠点拡充および人材採用を含めた海外投資を前倒して実施いたしました。さらには、その他グローバル・ピラー顧客候補の獲得が奏功し、当第3四半期より大きく業容を拡大しております。また、当社が出資を行っているシリコンバレーのベンチャーキャピタル「GoAhead Ventures」のオフィスにて、当社サテライトオフィスを開設している米国での調査や、イスラエルのテクノロジー企業との協業に向けた取り組みを推進し、引き続き先進技術に係る取り組みの継続強化を図ってまいります。

・エンタープライズソリューション部門

エンタープライズソリューション部門においては、金融セクター、製造・公共セクターおよび流通セクターの新規案件の立ち上げを推進しております。来期にかけて見込まれる大型案件の拡大を見据え、また、オフショア推進の多国化の潮流を受け今後予想される人材リソースの不足に対応すべく、人材の再教育および中途を含めた積極的な人材投資を実施しており、当社グループの成長戦略に沿った取り組みを継続しております。

引き続きグローバル事業の両部門において、盤石な既存事業のキャッシュを、新たなソリューションの開発、さらには優秀な先端IT人材への積極的な採用・投資に振り向けることにより、今後更なる成長を見据えた戦略の実現を目指してまいります。さらには、人材を育成するための独自研修プログラム「ACTION」での採用および研修を再開し、優秀な人材の獲得・育成を強化しております。また、当第3四半期より、価格政策に加え、為替を含めた外部環境の変化に向けた対応についての施策を推進しております。

既存の主要顧客の売上高の伸長および高度な新ソリューションに係る受注獲得により、また、第2成長フェーズに向けた積極的な人材投資をこなし、第3四半期累計にて増収増益を確保いたしました。

この結果、グローバル事業の売上高は2,781,329千円（前年同四半期比19.0%増）、セグメント利益は312,121千円（前年同四半期比1.3%増）となりました。

b. メディカル事業

メディカル事業においては、子会社である株式会社エーアイエスの主力製品であるレセプト点検ソフト「MightyChecker®」およびオーダーリングチェックソフト「Mighty QUBE®」の引き合いは、引き続き順調に拡大しております。戦略的商品である、次世代レセプトチェックシステム「MightyChecker®EX」についても、直販を中心に導入数は堅調に推移いたしました。これら大手医療グループ内における横展開に加え、新型コロナウイルス感染症対策としてWEBを活用した営業・サポートへの移行により、更なるダイレクトアカウント（直接販売）獲得、ソリューションの重ね売り（顧客単価アップ）の推進を行っており、今後は当社ソリューション導入による経済効果を見据えた新価格政策の取り組みを強化してまいります。

また、医療クラウド新サービスSonaM（そなえむ）や、生損保向け新ソリューションの開発、その他データ分析（健保組合・学会等）など、医療のデジタル化に関する新事業を積極的に立ち上げ、Mightyシリーズに次ぐ将来の「新たなサブスク型の収益源」の確保に向け、積極的な投資を実施し、更なる収益率向上の実現に向けた施策に取り組んでまいります。これら新施策の一つである、医療データベースを活用した支払審査検索エンジン「保険ナレッジプラットフォーム」の本格的な横展開を推進しており、複数の生命保険会社との実証実験を含めた具体的な商談を実施しております。同時に、同プラットフォームにおける新たなDXメニューの開発にも着手しており、来期以降の磐石なSaaS収益の発現に向けた取り組みを強化、今後は新たなサブスクリプション型メニューとして、保険業界全体へ向けた本プラットフォームの浸透を図ってまいります。

このように、医療の効率化や病院の経営改善ニーズの高まりを背景に、レセプト点検ソフトウエア市場におけるリーディングカンパニーとして、サブスクリプションモデルによる盤石な収益基盤が構築されたことに伴う利益の増加が、開発や人員強化、さらには2024年の医師の働き方改革に向けた新ソリューションや知財戦略に係る戦略的投資に伴う支出の増加をこなし、セグメント利益は過去最高水準の高収益性を継続し、推移しております。

利益面につきましては、前倒しにて実現した高収益構造の確立と、プロジェクト毎の徹底した収益管理及び継続的なコスト削減等が奏功し、売上高セグメント利益率が58.6%と、引き続き高い収益性を達成いたしました。

この結果、メディカル事業の売上高は1,129,144千円（前年同四半期比1.2%増）、セグメント利益は661,751千円

(前年同四半期比5.5%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は4,657,222千円となり、前連結会計年度末に比べ147,383千円増加しました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産が106,733千円減少したものの、現金及び預金が222,065千円増加したことによるものであります。固定資産は1,012,648千円となり、前連結会計年度末に比べ101,678千円減少いたしました。これは、有形固定資産が17,115千円増加したものの、無形固定資産が76,465千円、投資その他の資産が42,328千円減少したことによるものであります。

(負債の部)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,286,319千円となり、前連結会計年度末に比べ178,212千円減少しました。これは主に、未払法人税等が118,598千円、賞与引当金が38,848千円、買掛金が14,690千円減少したことによるものであります。固定負債は410,290千円となり、前連結会計年度末に比べ63,180千円増加いたしました。これは主に、リース債務が56,497千円減少したものの、退職給付に係る負債が77,888千円、繰延税金負債が27,687千円増加したことによるものであります。

(純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は3,973,261千円となり、前連結会計年度末に比べ160,736千円増加いたしました。これは主に、自己株式が143,060千円、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上と配当金の支払により利益剰余金が307,172千円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月12日の「2022年3月期 決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,377,526	3,599,592
受取手形、売掛金及び契約資産	938,780	832,047
その他	207,529	239,800
貸倒引当金	△13,996	△14,217
流動資産合計	4,509,839	4,657,222
固定資産		
有形固定資産	53,037	70,153
無形固定資産		
ソフトウェア	2,554	16,770
ソフトウェア仮勘定	19,989	—
使用権資産	238,437	167,745
無形固定資産合計	260,981	184,515
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	221	—
繰延税金資産	375,233	376,241
その他	424,853	381,738
投資その他の資産合計	800,308	757,980
固定資産合計	1,114,327	1,012,648
資産合計	5,624,167	5,669,871

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	74,297	59,607
短期借入金	100,007	100,000
リース債務	90,409	81,749
未払法人税等	129,174	10,575
契約負債	691,984	710,216
賞与引当金	50,791	11,943
その他	327,866	312,227
流動負債合計	1,464,532	1,286,319
固定負債		
リース債務	137,566	81,068
繰延税金負債	169,847	197,534
退職給付に係る負債	32,173	110,062
資産除去債務	7,522	21,625
固定負債合計	347,110	410,290
負債合計	1,811,642	1,696,610
純資産の部		
株主資本		
資本金	788,949	795,078
資本剰余金	693,565	699,694
利益剰余金	2,270,297	2,577,470
自己株式	△25,588	△168,649
株主資本合計	3,727,224	3,903,593
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,936	35,504
為替換算調整勘定	62,731	92,443
退職給付に係る調整累計額	9,451	△58,454
その他の包括利益累計額合計	85,118	69,492
新株予約権	182	174
純資産合計	3,812,525	3,973,261
負債純資産合計	5,624,167	5,669,871

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	3,452,771	3,910,774
売上原価	2,029,354	2,391,920
売上総利益	1,423,417	1,518,853
販売費及び一般管理費	723,517	784,898
営業利益	699,899	733,954
営業外収益		
受取利息	269	861
持分法による投資利益	—	6,126
保険解約返戻金	3,833	21,837
契約解除益	10,000	—
為替差益	4,035	—
その他	2,699	3,828
営業外収益合計	20,837	32,653
営業外費用		
支払利息	2,351	1,187
リース支払利息	1,635	9,551
持分法による投資損失	2,337	—
為替差損	—	6,070
その他	48	3,325
営業外費用合計	6,372	20,134
経常利益	714,364	746,473
特別損失		
貸倒引当金繰入額	11,649	—
投資有価証券評価損	—	106,332
特別損失合計	11,649	106,332
税金等調整前四半期純利益	702,714	640,140
法人税等	181,426	226,558
四半期純利益	521,288	413,582
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	521,288	413,582

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	521,288	413,582
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	614	22,568
為替換算調整勘定	△6,082	29,711
退職給付に係る調整額	△472	△67,905
その他の包括利益合計	△5,940	△15,625
四半期包括利益	515,347	397,957
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	515,347	397,957
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2021年5月25日 取締役会	普通株式	利益剰余金	82,619	7.00	2021年3月31日	2021年6月25日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年5月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	106,409	9.00	2022年3月31日	2022年6月24日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	2,337,057	1,115,713	3,452,771	3,452,771	—	3,452,771
セグメント間の内部 売上高又は振替高	61,471	—	61,471	61,471	△61,471	—
計	2,398,529	1,115,713	3,514,243	3,514,243	△61,471	3,452,771
セグメント利益	308,245	627,192	935,437	935,437	△235,537	699,899

(注) 1. セグメント利益の調整額△235,537千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	グローバル 事業	メディカル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,781,329	1,129,144	3,910,474	300	3,910,774	—	3,910,774
セグメント間の内部 売上高又は振替高	32,717	—	32,717	—	32,717	△32,717	—
計	2,814,047	1,129,144	3,943,191	300	3,943,491	△32,717	3,910,774
セグメント利益	312,121	661,751	973,872	150	974,022	△240,068	733,954

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに該当しない、ISMS認証維持支援コンサルタント業務であります。

2. セグメント利益の調整額△240,068千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。